九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

Seasonal ambient changes influence inpatient falls

孫田，千恵

https://hdl.handle.net/2324/1806912

出版情報：九州大学，2016，博士（看護学），課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（3）

KYUSHU UNIVERSITY

要旨

【背景】入院患者の転倒は、身体能力の低下や生活の質に影響を及ぼし、特に高齢者においてはしばしば致命傷となりうる。転倒には、様々な要因が関連していることが判明しているが、行動要因と環境因子の相互の関連は十分に検討されていない。

【目的】入院患者の転倒に関与する行動要因に及ぼす影響を、季節および日内変動という環境因子に焦点を当て検討した。

【デザイン】後ろ向き研究。

【方法】2010 年 4 月から 2014 年 3 月までの転倒・転落に関するインシデント・アクシデント記録により、行動要因と日の出時刻、夜の長さ、気温を含む季節および日内変動の環境因子との関連を調査した。

【結果】3,037 件のインシデント・アクシデント記録のうち、転倒に関するものは 464 件であった。本調査における平均転倒率は 1.4±0.5/1,000（占有床日数）であった。季節および日内変動について転倒率を比較した結果、10 月から 2 月の夜明けの転倒率が 4 月から 9 月の転倒率より高かった。また、転倒に関連する行動要因で最も頻繁なものは排泄行動であり（56.9%, n= 264）、転倒の 57.1%は夜間に発生していた。多変量解析の結果では、夜の長さが夜間転倒率の増加に有意に関連していることが示された（p=0.047）。

【結論】入院患者の転倒は、11 月から 3 月の早朝に増加し、排泄行動に関連する転倒の傾向があることが示唆された。これらの結果より、特に転倒リスクの高い時間と季節に、排泄行動に関連した細心の注意を払ったケアを提供することが、転倒の発生率を低下させる一助になると考える。

キーワード：転倒、夜間頻尿、夜明け、日内および季節変動、高齢者